

◆悩みを抱える若者がいっても立ち寄れる居場所を

自己肯定感が低く、悲観的な思いを抱いている若者が増えていく中、若者が自信をつけて社会に出ていけるような様々な段階での支援が必要です。

Q:不登校やニート、ひきこもりなど様々な課題を抱え居場所のない若者にほっとできる居場所を設けてはどうか

A:まずサポートステーションで居場所を設け、そこから自立に向けた支援を行う。自信をつけさせ、ひとりひとりに適した伴走型支援を行っている。

Q:働くことを目的としたサポートステーションとは別の、誰もが立ち寄ってほっとできる居場所が必要かと思うが?

A:居場所だけでは次のステップは踏めない。様々な世代とつながる交流も必要と考える。

Q:サポートステーション開所から約1年。どんな課題があるか

A:世間とつながるための訓練体験の場を市民や事業者とつくりたいことが課題。

Q:児童養護施設の子どもなど18歳を過ぎると支援が切れてしまう。その後の対応はどうしているか?

A:退所後の支援は難しいが、年に数回交流会を設けている。児童相談所や子ども家庭支援センターもその次の機関と連携を図っている。

◆貧困の連鎖を断ち切るために。子どもの貧困対策について

昨年6月子どもの貧困対策法が制定されました。貧困の連鎖を防止し、子どもの将来がその生まれ育った環境で左右されることのない社会を実現するため、市の取り組み姿勢を伺いました。

Q:市として子どもの相対的貧困率を示す数字はないが、子どもの貧困の指標となる情報は?

A:児童扶養手当の届出の際状況を聞き取っている他、母子自立支援員等が相談を受け、庁内連携により支援に結び付けていく。

2014年6月

八王子市議会議員 鳴海ゆり



議会報告

Q:生活困窮者自立支援法が成立し、来年4月施行にむけてワンストップ相談窓口の設置など体制整備が急がれているが状況は?

A:特に関連の深い所管課長で部会を設置し検討を進めている。

Q:訪問支援専門のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置が必要かと思うが市の見解は?

A:今回の生活困窮者というのは広い範囲になるので対応できる人員は十分配置していきたい。

◆集团的自衛権の行使容認のための憲法解釈変更に対する反対の意見書、賛成多数で可決!

今、この集团的自衛権の行使という風穴をあけてしまったら、戦争への道が開かれてしまいます。日本の平和主義「基本的人権の尊重」「主権在民」の3本柱を守っていくのは私たち大人の責任です。

賛成討論を行い、意見書は賛成15名、反対11名(自民党)、退席9名(公明党)の賛成多数で可決され、国に提出されました。

意見書提出したことを党派を超えてチラシとし、街頭宣伝しました。



◆セクハラヤジノー!

八王子市議会からも要望書を提出しました。

八王子も例外ではない、議会のヤジ文化。こうした発言で傷ついている女性議員がいることは以前から聞いていたことです。

今回、再発防止に向けて、八王子の女性議員全員と、賛同する男性議員5名の連名で東京都議会議員長あてに要望書を提出しました。どの議会でもこんなことが起こらないように、注視していかねばなりません。

◇都政情報◇

券売機に障がい者割引ボタンを

夫が突然車いす生活になった女性から、外出で電車利用のとき、子ども用ボタンで切符を買う現状に抗議の訴えがあった。

障がい者が介護者同伴で公共交通を利用する場合に運賃が半額になる制度では、窓口で障がい者手帳を提示して、切符を購入することになっている。その後、自動券売機で購入した子ども用切符でも代用できるようになったが、大人の障がい者が子ども用ボタンしか選択できないのでは、これは人権問題である。

関西の私鉄各社では、券売機に障がい者割引ボタンを設置しており、東京でも、りんかい線に設置されている。東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルの2000年版には、誘導基準に「券売機に障害者割引ボタンを設置することあり、現在の国のバリアフリー法ガイドラインにも、同様に書かれている。大人が子ども用ボタンで切符を買うという人権上の課題解決に向けて、まずは障がい者割引ボタンの設置を進めるために、見直し中の施設整備マニュアルに入れるべきだ。

◆ウィークエンドフォーラム

<山歩き企画!>

『川口物流拠点センター計画地、天合峰を歩こう!』

10月4日(土)10時~宝生寺第2自治会館集合

◆八王子平和強化月間参加企画

映画「標的の村」の上映

11月3日(月・祝)北野市民センターホール 10:30~と14:30~の2回上映予定



5月 ウィークエンドフォーラム「小児科医・山田真さんに聞く予防接種のはなし」



6月 集团的自衛権行使容認反対の抗議行動に参加



5月 若者のシェアハウス「てとハウス」を見学

活動レポート

生活者ネットワーク 3つのルール

1、議員はローテーション

八王子では最長2期(8年)で交代します。議員を職業化・特権化せず、人が交代することで、参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などにその経験を生かします。

2、議員報酬は市民の政治活動資金に

議員報酬は市民の政治資金として使います。お金の流れは公開し、政治資金の透明化を図っています。

3、選挙はカンパとボランティアで

選挙は政治に参加する入口です。お金(カンパ)と知恵や力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

生活者ネットワークは都内34の自治体に地域ネットをもつローカルパーティです。地域の課題に取り組むと同時に、市・区をこえた「東京問題」には全体でとりくんでいます。